

1987年の社長就任以来執務室に掲げて、ともに歩んできたのが、  
「顧客から学ぶ」という言葉。今年は一昨年から最悪期を脱し、次  
なる成長構造の実現に向けた新たな長期経営構想をスタートさせる  
節目の年だ。今後10年間で我々の顧客はアジアを中心としてグロ  
ーバルに、より一層広がっていく。これからも、この言葉とともに新  
たな顧客創造に挑戦していきたい。(昭和14年生まれ)



オムロン会長

立石 義雄氏

日立製作所会長

川村 隆氏



60歳なら「日は中天にあり」という感じだが、72歳にもなると西日になっている。夕暮れにふさわしい生き方をしたい。ただ個人的な目標はない。日立の業績はつつと病床から起きあがったところで、まだすぐぶる頑健ではない。売上高が世界40位でも実力が伴っていない。米ゼネラル・エレクトリックや独シーメンスのレベルに追いつく。ただただそれに取り組む。(昭和14年生まれ)

富士フイルムホールディングス社長  
古森 重隆氏

今年は売り上げをグッと伸ばす勝負どころだ。力業でも売り上げを伸ばせる、たくましい野性味がこういう時代には要る。ここ数年苦労したが、それが実り始める年と楽しい期待感を持っている。個人的には40代、50代と気持ちはあまり変わらない。歯が抜けたわけでも、白髪になったわけでもないので、自分が老人になったと思う理由がない。ただ、平穏無事な人生ではなかったから、感慨はある。(昭和14年生まれ)



ダイスコ会長

溝呂木 斉氏

半導体メーカーの設備投資は、今年も引き続き高水準を維持すると見ている。当社としても、今後の伸びが予想されるレーザーソーや、ウエハー薄化への対応など、新技術を先導する分野の研究開発に力を入れていく。また、4月からスタートする2020年度に向けた企業ビジョンの中では、事業環境の変化にも、より柔軟に対応できる会社作りを進めていきたい。(昭和14年生まれ)

新たなステージへ  
大きくジャンプ!!

卯  
年生まれの経営者

今年は、当社にとって新たな中期経営計画がスタートする。現在の中計では事業基盤の再構築を主眼に置いており、当社の悪い部分を直すことに力を入れてきたという見方ができる。新中計では、良い部分をしっかり伸ばすことを心がけ、今後の飛躍を目指す。そういった意味でも今年は、干支(えと)のウサギが跳ね回るように、当社が躍動できる年にしたい。(昭和26年生まれ)



荏原社長

矢後 夏之助氏

今年は子会社のSBIアラプロモが開発を進めるALA(5-アミノブレリン酸)のブレイクを期待したい。すでに健康食品や化粧品で販売されているが、医薬品としての実用化も見えてきた。この物質は体内にある物質で副作用が少なく、がんや脳腫瘍の手術診断薬や糖尿病治療薬としての応用も見込める。2008年に直感的にいけると思い、始めた事業で思い入れが強い。海外展開も期待でき、社会にも貢献できる夢のある事業だ。(昭和26年生まれ)



SBIホールディングスCEO

北尾 吉孝氏

安川電機社長

津田 純嗣氏



昨年は景気回復のスピードが想定より速く、対応するための生産に明け暮れた。欧米や中国など海外主要市場はすべて好調。企業の在庫管理が徹底され、景気変動の隔隔が短くなっている。今後も世界経済は成長基調が続くだろう。今年は風力や太陽光発電など、環境関連の市場拡大が予想される。当社も「エネウィン」シリーズの販売を本格展開していく。(昭和26年生まれ)

偶然だが、創業が卯年で、会社も一回りし、今年12年目に入る。創業時は手数料の自由化などがあり、この12年間、会社は伸びてきたと思う。ただ、内需が前提のオンライン証券のビジネスモデルは限界に来ている。今年は中国を中心とした海外事業の強化を図り、モデルチェンジを図る年にもしていきたい。卯年は「跳ねる」と言われ、証券業界では縁起がいい年。会社としても個人としても、跳躍の年にしたい。(昭和38年生まれ)



マネックスグループ社長

松本 大氏



積水ハウス社長

阿部 俊則氏

若いころは還暦というすごく年だと思っていたので違和感がある。還暦は人生の終わりの始まりのようなイメージだが、自分自身としてはまだ青臭いと思っているし、熟年という最盛期の始まりと思っている。当社は2010年8月に50周年を迎えた。「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の三方よしで世の中に評価され、好感度のある会社でありたい。(昭和26年生まれ)

村田製作所社長

村田 恒夫氏

販売拠点を開設したインドに先日、視察に行った。経済の成長性が非常に高い一方、道路が混沌としている未開拓な状況を見ると、当社も文化の発展に寄与できるのではないかと企業家精神をかき立てられて、気持ちを新たにしたい。中国に限らず、新興国は注力していきたい市場。今年はこそというときに俊敏な動きをするウサギのように、会社経営に取り組む年にしたい。(昭和26年生まれ)



アイダエンジニアリング社長

会田 仁一氏



日本は元気がない。プレス業界でも中国・東南アジア向けの需要は伸長しているが、国内向けは縮む一方。産業のすそ野を広げるなど内需拡大策を本気で考えないといけないだろう。また全体感として元気がないのには日本の国民性、マインドも影響している。社会がフェアで自由で元気があふれるためにも、まずは会社の中から明るくしていきたい。(昭和26年生まれ)

りそなホールディングス社長

檜垣 誠司氏



公的資金の完済にめどをつけ、今後の成長を見据えた資本再構築プランの実現と、真のリテールバンク・グループを完成させていきたい。そのために人間力の向上を掲げ、人材育成に取り組んでいく。

プライベートでは、第二次世界大戦前後の日本の歴史を見直そうと思う。あらためて勉強し直すことで、自分のベースをつくってみたい。今年は地味であるべき年だと思う。(昭和26年生まれ)